

- 「燃えかかる異物達」後日評。ビニル袋(ストア)に入っていた牛帳(日記も兼ねる)延長コード(買つて半月)、カッター、ローソク(2~30本)センコー(4~50本)、パイプ(番料)、笛、等々を誰かがゴミとまちがえて捨てた。今は1970年の牛帳を使ってる。(曜日が同じ)
- 「4月の後文の歌謡伎」骸骨の音楽、(4-7)トニーとぬ、骸骨を黒子が操作して居る人が、場内が暗いので骸骨一人に見える。それが段々に空中に浮き上がり歩き始める。花道、舞台を縦横無尽に歩きつづけてゆく(中にモーターが入っている。隣りにいた客は、おれは中に人がはいくばつて入っているのだから、どうも入っていた)。客席の中に入っていき、お客の目の前のジュースを飲んでしまう。等々(5時間)で2000円。
- 「能登の踊り」森上ゆき子守歌。狂言師、野村胡堂の弟子が出演。好む役どころ。(おまじに飛んでいる)、四つんばい(差別語?)に落ちて腰動かさず、まかまか一本の綱にぶら下がったまじで髪を毛でむき打たれた。これが女に尻尻大変いやらしいことになっている。
- 「再現・朝日センター」今見ると何というともない。塩見允枝子が客の失笑を買っている。所詮、オレシヤカドXO-でも。でも南畑飛馬の「反芸術奇談」を讀むと、九州派とかガタイの太いおもしろうた。やはり昔も地方の時代か。切符を押しつけたと思われ華道のおかしな連が客層。
- 「イキナリアムス」久々の金井勝作品もほろろでもこれに屈。内題の「愚い女を振り廻す」一時間のやつは、カチを回し廻すことにより幾時かエスケートしつづける女を殺したいと独白して、女の姿を手中に握りかみみみりと、F.F.化の極。内題が「命の半分である女の映画」と！何とない自分か。パフォーマンス+ビデオは面白い。シドで女性の全裸が映った。
- 「エリ、ウィーゼル講院」下階和枝の同時通訳から始めたら、外見も熱血とウット。カチカチ、ババの塔の逆説。「互いに言葉がわかるから、意見の違いが露呈するに至るので、異国語を使われるようになった。あるいは不審さん達が失業しないようお神様に直訴していられたのかも」。南口一番、死ぬはロープウェイの線青でもなければ、世界統一企業もあつてもない。日本の及ぶ日本が流布を、日本人は世界一普及(246)でいいと思つて、と嘆く。この思ひみは、シマがあるから、ヒバノ、のシドとヒ、ガ、モ、シ、(同じ)からでも至るまで防犯ビ、ウ、ン、で、先日おたの命を自ら断つた)のいのちを救った。自分か話のこぼれを人に変えてしまつた。少くも自分が救つた。こぼれを救つた。こぼれを救つた。
- 「留聲」タカハシ。韓国のリズムのタイガムとビラートにほまいてしまう。とちかもその時分には。

Personal Effects No. 23 87/5

(なせか終刊後も隔月に発刊されているのはなぜか、とまでつづいてみる)

- 京橋の「キョウリ-恒雅」を8/3~8/8 借りた。ビルの上で露天の空内もある時頃まで、毎日日替りで音楽会、おなまを催すと思つて居る。まあアムスチックな音で、誰か、やりません、こと?
 - エビスのスペースで、パフォーマンス特集をやるのでやりませんか?という。(スペース人が)練習日も一日つける、という。4人、情宣もやる。というので下見にゆくと、4人、1500円×20枚のルマを知らされる。やめる。
 - 併向にゴツている(鑑賞のみ)。さかかには「仁王立ち」の葉月氏の。永田耕亮、うちの壇家と故人の吉田魚眼など好み。死ねしにばらばら梅に笑ひつづ。
 - ビニル包人間をやるものおでに勝利。巨人おひらと黒い蝶を吐いて去る。上甲珍
-
- 今日8/8 GESO宅へ行くかもしれないということでも急遽P.E.を書いているのだが、GESO氏の公表してない手紙が一通ある、それが霊柩車は面白い面白い、たら面白いという感じのとても面白いもので探しているのだがみつからない、たらみつからない。
- 昨日TVの動物番組でピロギン-パンパンジ-は興奮をおさえるために男と男、女と女でも性器をすり合わせる。存続ほど。それからスランカのウエツタ^ル後のドクメンタリーもよかった。取材陣加初め、会、た時、一統楽器を奏する。存続ほど。
-
- アムスチックもシドも凡マキも、いづくに何となくすずしい。おとシド。
 - 誰かビデオで往復書簡やりませんか?
 - Psychological S? Equipment (聴覚器具)

4月11日 「突然えあがる異物達」キョトアイラク。久し振りの企画(昔なしいは練習みたいなものだったから)で多勢客加まきこうしく緊張する。反省点はやはり楽器を許したのばまずかった。全体の構成を(特にラスト)はきり決めよべきだった。でも花束をもらうという信じられないようなこともあってまあこれで引退しても満足。

4月28日 「青空歌劇団」テリアコール 内容は子供かはしゃいでいのはおまわ、というように案外もあり退屈もあり。終わ、て見に来ていたGESO.村山と呑む。

4月29日 高円寺「公運」話し合いは進展せむ呑む。美川君の狂言の真似。身長の低さとスホソンの話など道化の真髓を大笑いして聞く。

5月2日 部屋の前所で床のものを拾おうとしてよそみをしてしながらつむくと前歯を流し台のステンレスに強くぶつけて少し欠ける。自分か、なせけない。(道化の真髓?)

5月3日 渋谷シネホール「メーシューアウアエス」一般公募入賞作の片思いの女をしつこく撮り続ける1時間くらの作品には疲れた。作者のナレーションで「こんなこといつまでもしてはいけないうんたさうけと...」と言っている時観客の一人が「あか、ていなる早くやめ、とヤジを入れたのがおかしかった。『そのとおり』たつたかも?

5月4日 浜松町増上寺アジアカツリ。民芸品、食物屋台多数。買ったヲ食ひたり。④、おせちという人と会う。雅楽。

タコ-ルダンス. 岩倉レシマイ. おめあての韓国演奏. カヤクム. チャンゴ. 踊りなこ. 最後は. 客も一緒に駆けまわす. 終わ、て呑む. ガラスのどっりを盗んで帰る. ⑤、おせちと

5月9日 代々木公園 さまお能. 能は退屈なことが多いか、狂言は面白い. 今日はレーザー光線を使、て演出でよかった

5月11日 浅草「^①和心不の死にさま」「F/A引き裂かれたトリック」「^②キングコング2」①は原作がよかたので見たかったもの. 話はひどく変わ、ていたし物足りなかつたか、②が巻込まれ型のサスペンスでますます. ③は最初と最後をみただけ. 全部見る気もあきない.

5月17日 「風の旗団」けいこ場南ま. 公南白まけいにはなかつたが「風ッ喰らい. 時逆しま(?)」という曲馬館時代のフィルムを見かけたのが収穫. 悪作、て帰、たのを覚えていない. さうらう事件の項

5月21日 「殺人全書」岩川隆を讀んで寝ると首を切断される夢をみる. あか、てこつつけるのたかかどうも首の部分が消滅したように肩からすく豆の奇型のように落ちつかない. みんなにも笑われる. そ、こ、で、あ、一度切られる前まで戻、て、セリ落、と、う、と、し、て、い、る、人、を、押、し、倒、し、て、安、心、す、る.

※ GESO氏の年紙は2回分を適当にコピーした。

☆φκ。公民館の件ですが、①浅間湯は大きい音を出すグループには貸さない方針になった[前回の公民館のせいではなく、その後同所を借りた某演劇グループの騒音に近所から苦情が出たのが直接の原因だという]。よって、×。②沼袋のほうは、中矢くんが当たって見たところ[僕が電話で聞いたときはそんなこと言わなかったのに]、借りるための条件として中野区民5割以上必要とか言われたらしい。で、前に中野の福祉会館を借りたときの名簿を流用するなどして[ただ、その後中野区民でなくなった人もいるから、頭数を揃えなきゃなあ]何とか沼袋を借りるか、あるいは別の場所にするか、考えてるところ。どないしょ。

☆ぬわーんだ、「かえる」は1か月待たずに出ちゃったのね。ま、いいか。

☆観たり読んだり食ったり：①ビデオショップで借りた『悪魔のいけにえ・2』を土産に友人カップルが遊びに来た。やっぱりこういう作品はスキモノ同士で笑い転げながら観るのが一番。彼らは3度、僕は2度、ゲラゲラ楽しみながら観ましたですよ。前作から14年後に作られたとかで、物語も14年後という設定。チェーンソーにはチェーンソーでついでに、3機のチェーンソーを振りかざして「恐怖をエサに生きる」肉屋のアブナイ3兄弟その1[中小企業の悲哀を訴える人肉チリ屋のオヤジ]、その3[主役・チェーンソー魔バーバ]及び彼らの130歳を超えるとかいう爺さん[すっかりボケてて屠殺用ハンマーを何度もボロリ]に復讐を遂げるデニス・ホッパーも、ドタン場で逆襲に出、次男[頭にあいた穴を金属板でふさいだ、いとせいのくろの喋り方をするキヨシロウみたいな奴。こいつが一番オカシ]をやっつけるDJ嬢も、ミイラになったミイラ取りよろしくチェーンソーで「正義のために」暴れ回る。唯一生き残った件のDJ嬢の雌叫びがパート3への期待を繋ぎます。ワクワク。ところで、ピーター・グリナウェイの“200”が遂に上映されるみたいじゃないですか。観たいなあ。『エル・トボ』はまだ観てない。急がねば。②『なぜなにキーワード図鑑』(山崎浩一)。著者の見方には結構近いところもあるので、共感と反感を覚える[俺はアンビバレントだ]。例えば19世紀末の西欧と現在の日本の類似性の指摘。「ヨーロッパ人は雑種であり、結局のところ相当醜悪な賤民であり、なんとかして一つの衣裳を必要とする。そうして、彼にとって必要な衣裳部屋は歴史である。もちろんどの衣裳をつけても身に合わないから、彼は後から後からとりかえる。19世紀がさまざまな様式の仮装舞踏会を、いかにつきつぎと偏愛し変更していったさまを考えてみよ。また、『所詮われらには何も似合わない』と絶望した時のことを考えてみよ。あるいはロマンチックに、あるいはクラシックに、キリスト教的に、フィレンツェ風に、バロックに、『国粹的』に――、どう扮装してみてもだめであり、依然様式において

も技巧においても『格好がつかない!』のである。しかるに、『精神』は、ことに『歴史的精神』は、この絶望の中からもおのれに有利な態勢を看取する。いつもくりかえして過去や外国からの新しい見本が試みられ、着かえられ、脱ぎかえられ、しまいこまれ、そして何よりも研究される。われらの現代ほど、かかる意味の『衣裳』の細目を研究した時代はない。道徳・信仰綱条・芸術趣味・信仰に関しては、微に入り細を穿った研究がなされている。今や、いまだいかなる時代にもなかったような大袈裟なカーニバルが催されようとしている。しかし、これは精神的なばか騒ぎの哄笑であり屈辱であり、アリストパネスでもやりそうな世界嘲笑の愚昧の絶頂というほかはない。おそらく、われらはここにこそわれらの創造の領域を見うるのであろう。われらといえどもなお――あるいは世界史の戯作者または神の道化者として、独創的でありうる領域を見うるのであろう。おそらく、現代には他に未来を有する一物もないとはいえ、われらの笑いのみはなお未来を有するのであろう!」(ニーチェ『善悪の彼岸』223節)。ついで一節まるごと書き写してしまったが、1885年に書かれたこの文章、まるで今日の此岸のことを言っているみたいですね。③『ばんこちゃんになろうっ!』(みぎわパン)。うーむ、脳のとれた5センチに雪印の刺青するのはなぜかよく分からないがカッコイイ。こういうマンガを世に出してくれる『ガロ』はやはり貴重な存在だな。④『噂の真相』6月号。高橋春男の連載まで始まった。この手の面子で固めちゃうってのはヤバイ気もするんだけど、ま、いいか。呉智英は既発表のネタを使って、ほとんど二重売りだぞ。ダメじゃないの。⑤『明るい映画館』(姪子能取)。トンネルを越えるたびに共産主義者になっていく「夜汽車」なんか、好きですね。⑥『月刊ヴォワアン通信 Vol.2』。映画評[書評とかレコード評も同じだが]ってのは、褒めてるにせよ貶してるにせよ、共感を呼び起こすにせよ反感を呼び起こすにせよ、読者をしてそこで取り上げた作品に関心[観たい・読みたい・聴きたい]を抱かせて初めてメディア[=媒介物]として機能したと言えんと思えますね。そういう意味では、残念ながらこの通信は少なくとも僕にとってはメディアとして機能しなかったみたい。⑦金田一氏の土産のカツオ。ゴウちゃんにタタキしてもらい食す。まったりとして(笑)美味であった。これを売ってた荻窪駅地下街の魚屋群は[筑地ではない]独自の仕入ルートを持っていてネタは良いとか。

☆聡視ちゃんがバイト先の飲み屋でゲロ掃除させられてつられてゲロしてしまった話をした[……シモネタの予感]。ゲロといえば、ヤセイと過日電話で話した内容:彼女は自分の娘[確か今度の9月で2歳になる]を「余り愛情は感じないけど、面白いのでよく観察している」のだけど、僕が昔「8ミリ持ってたら、ゲロ

とかウンコの出る瞬間を下から撮ってみたい」とかバカな話をしたことを思い出して、オムツを替えるときのポーズにさせて脱糞の瞬間を観察したところ、力むとおまんこ全体がめくれ返る様がとても面白かったとのこと。「写真送ってよ」とは言ったけれど、DPE屋じゃ焼いてくれねーだろうなきっと。大人のモノは多分そんなにはめくれ返らないと思う[そういうシチュエーションで観たことないけど]。……近頃の若い娘や芸能人の間じゃ無理矢理ゲロ吐いて痩せるってのが流行ってるという話を聞いたことがあるが、聡視ちゃんとか能理子ちゃん[梅野能理子=黒柳陽子の現在の名。ちなみに、野口氏の義理の母親の妹の娘という設定になっている。彼女も最近近所の飲み屋でバイトを始めたが、相変わらず遅刻しているみたい]は身近な実例。フロイト的に言うと(笑)何なんだろう。僕はフロイト的に言って(同前)上位自我が欠落しているせいか、正直言ってシモネタなど全然恥ずかしくない。世間様に顔向けできるように恥ずかしがってみせる学習はしてきたのですがね。人間生活は難しい。

☆月末近くに金野くんがまた学会で上京する予定。今回は頑張ってるせいで、昔のバチアタリな密室芸の数々[脳性麻痺落語など]を見せてもらおうと思っています。昨日嘉陽氏[小山ヒロヒト氏の友人。沖縄出身]らと飲んだときの島の脳性麻痺カップルの婚姻譚はおかしかった……。しかし、こういう話をすると[そういうつもりは毛頭ない——これは禿サベツ表現か?——んだけど]サベツ主義者だと思われてヤバイのだろうね、つるかめつるかめ。

☆東京も国際都市化してきたっつうか、随分外人が増えてきた。高円寺近辺はさすがピンボー人の街だけあってアジア系が多いけど、白人と違って親しみが持てる。「きよ香」[「抱瓶」の本店。沖縄料理屋]に最近バイトで入ったアイリーン・ゴウ嬢は、[一見韓国風だけど]マレーシアから来たんだそうですが、キレイな人。金田一さんも野口さんもたちまち気に入ったそうですが、さすがにファンが多いらしく、僕たちの見ている前でも中年客にお尻を触られていました。でも、英語でくどけないとダメでしょうね[日本語はまだホンの片言]。金田一氏は「抱瓶」でたまたま相席になった中年サラリーマン二人組に沖縄人だと思われ[無理なからぬことだと思う。しかし、僕もたまたま三国人と間違われるから人のことは言えない]、わざとでたらめな沖縄の風習を教えて連中を煙に巻いた[ような気がするが、酔っ払ってたのでよく覚えてない]。

☆隠れ場のない街は息苦しいから、これでいいのだ。っつーわけで、「ゴールデン街化する高円寺」[金田一]、「ゲットー化する高円寺」[ゲソ]からお送りしました。

19870513 GESO

☆『嗜の真相』誌の「読者の場」を読むと、最近では呉智英の連載に対する批判が多いようだ。呉氏の文章は極端に原則論的なところがあるので反発をかっているのだと僕は思う。確かに言い過ぎと思われる部分も少なくないが、呉氏の連載を読んで僕が不満を感じるのとはそういう点ではなく、氏が「折々のバカ」として血祭りにあげる対象が、いずれもたいした相手ではないという点にある。「凡夫を執拗に罵倒するのは大人にあるまじき振舞いなんじゃないですか」と言いたいところ。で、凡夫たちの批判に関して言えば、皆さん「反権力」と「人権擁護」が矛盾なく両立するという前提で物を言っている様子で、やっぱり浅はかだと思ふ。

☆赤瀬川原平の書くものには時々すぐく納得させられるが、最近読んだ『アサヒ芸能』誌の連載エッセイもそんな一つだった。ここで氏は、例のラフィン・ノーズコンサートで死者が出た事件に触れて、なんで最近の人たちは「盛り上がる」のが好きなのか、という問題を考察しているのだけど、大要次のようなことを書いていた。「テレビの場合、今という時間が過ぎることによってのみ仕事が成立する。番組の時間を何とか盛り上げてやり過ごしてしまえばしめたもの。「盛り上がる」というのは、そういうテレビ番組感覚にもとづいている。盛り上げなければ今が過ぎていないという神経症におちいつている。今という時間との対面恐怖症というか。……これは一種の空白恐怖症ともいえる。原因はもちろん生きていることの自信喪失である」。で、僕もかねてから似たような感想を持ってたもんだから、説得力を感じる納得力があつた訳で。ただ、ロック・コンサートなどの場合の盛り上がりには、これ以外にも外国のロック・コンサートの観客のノリを[映画やビデオ・クリップなどを通じて]学習した形跡が見られる。自然発生的なノリとはとても思えないのだ[僕が普通のライブ・コンサートに馴染めない理由はこんなところにもある。少なくとも僕にはああいふ非国民的ノリはない]。これも大きな要素ですね。まあ、実際に盛り上がっている方々はきっと「そんなことない。オレはオレのリズムで盛り上がってるんだぜ」って反論するだろうけどね。……そう言えば、かつて金野氏がこんなことを言ったのを思い出す。「外在するリズムがなければ踊れないなんて、貧しいじゃない」。わしもそう思う。……別に盛り上がりなくても、白けたっていいんじゃないですかねー。盛り上がるのが当然なんてノリ方は気持ち悪いと思いませんか? 仕事の接待とかで盛り上げる必要がある、てなことはあるかも知れませんが。

☆青空歌劇団は、小動物が元気に走り回っているみたいで、愛らしくもあり、不快でもあつた。歌や演奏はあまり良いと思わなかったです。ローリーの声には正直言って食傷気味だな。